

実施計画事業名		担い手育成支援事業		評価対象年度	平成 23 年度			
評価担当部署		建設産業部 農政課		課長(主幹)名	相馬 義則			
総合計画体系	分野	5	産業振興					
	政策	1	自然を活用した産業の体質強化					
	施策	2	安全・安心な農畜産物の供給に努めます					
	関連施策							
現状と課題	経営者の高齢化や後継者不在等による農家戸数の減少							
目的	農家数の減少を抑制する。							
施策展開の	①農業後継者の活動等に対する助成及び新たに農業を始める者への情報の提供 ②独身の農業後継者がパートナーを見つけるための交流機会の提供 ③新規就農者への補助							
成果指標	名称		単位		22年度	23年度	25年度	
	農業従事者数		人	目標	470	470	470	
説明	農業従事者数(各年1月1日) ※農業者台帳から			実績	479	466		
活動指標	名称		単位		22年度	23年度	25年度	
	農業後継者就農人数		人	目標	4	4	4	
	説明	市内において新規就農した人+親等の農業経営を継承した人			実績	3	4	
				目標	-	-	-	
	説明				実績			
				目標	-	-	-	
	説明				実績			
				目標	-	-	-	
説明				実績				
事業費の実績		単位	22年度 (決算)	23年度 (評価年度決算見込)	24年度 (予算)	備考		
	直接事業費(A)		千円	6,128	5,931	5,961		
	国庫支出金		千円	0	0	0		
	道支出金		千円	0	100	0		
	起債		千円	0	0	0		
	その他		千円	0	0	0		
	一般財源		千円	6,128	5,831	5,961		
	この事業にかかる職員数		人/年	0.80	0.99	0.99		
人件費(B)		千円	5,433	6,884	6,884			
計(A+B)		千円	11,561	12,815	12,845			
状況変化	実施計画当初(平成21年～)からの状況変化							

【1次評価】

成 果	成果指標の単年度の目標値は達成できたか(単年度の目標値がない場合は、長期的な目標値を達成できそうか予測)
	<b>a</b> a 目標達成 b ほぼ目標どおり c 目標達成できず(目標値と大きな差がある) <cの場合は、なぜかを分析して記入する> 平成23年度は高齢化や事故等により離農する農家があり、前年度比で13人の減少であるが、ほぼ目標数となった。
細 事 業 の 構 成 ・ 進 め 方	細事業の改廃や新規細事業の必要性はないか
	<b>a</b> a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
各細事業の進め方について、市民との協働、他団体等との役割分担の見直し、環境への配慮など、改善の必要性はないか	<b>b</b> a 問題なし b 検討の余地がある c 早急な改善が必要 <bまたはcの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する> 農家青年に出会いの場を提供するグリーンパートナー推進協議会の事業については、若者の価値観なども変化しており、これまでとは違った視点から事業内容を見直す必要がある。
	無駄なコストが発生していないか、投入した予算や人員に見合った効果が得られているか
コスト効率	<b>a</b> a 問題なし b 改善の余地がある <bの場合は、具体的な細事業名などを挙げ、問題点を記入する>
総合評価	<b>A</b> 概ね問題なし <A~C判定を受けての今後の方針、問題点に対する改善策などを記入する> 55歳以上で後継者のいない農家は全体の2割を超える状況である。高齢などによる離農の場合には、引き続き居住を希望する人が多いことを考慮しながら、今後も新規就農者の呼び込みを継続する。また、グリーンパートナー事業の内容を見直しながら継続実施する。

【2次評価】

成 果	<b>b</b>	細事業の構成	<b>a</b>	細事業の進め方	<b>b</b>	コスト効率	<b>a</b>
総合評価	<b>B</b> 見直しの検討が必要 <2次評価者の視点からコメントを記入する> 成果を「b」とする。 新規就農者の確保に努める。						

【内部評価委員会】

意見	
----	--